



大蛇【オロチ】ネーミングコンセプト リリース

～ 八岐大蛇伝説～

この度、(株)光岡自動車(代表取締役社長：光岡章夫 本社：富山県)は、平成18年10月2日に発表するファッションスーパーカー 大蛇【オロチ】のネーミングの由来に関しましてご紹介いたします。

大蛇【オロチ】の持つ独特なスタイルは、大蛇(だいじゃ)の持つ「妖しさ」「怖さ」の中に潜む「妖艶な美しさ」から生まれています。その大蛇(だいじゃ)をイメージし、日本神話の「ヤマタノオロチ」にヒントを得て、重みと言霊(ことだま)を感じる大蛇【オロチ】とネーミング致しました。

ネーミングの由来である「ヤマタノオロチ」伝説を色々調べてみると、有名な出雲地方の説より古い記紀より、北陸地方発祥説がありましたので紹介させていただきます。

八岐大蛇とはどんな生き物か？

記紀や伝説により、様々ありますが、一般的には八頭八尾で目はホオズキの様に真っ赤で、背中には苔や木が茂り、腹は血でただれ、八つの谷と八つの峰をまたがるほど巨大だったと言い伝えられています。

略称は大蛇(おろち)と言い、「お」は峰、「ろ」は接尾語、「ち」は霊力、または霊力あるものを意味します。

富山県から「大蛇」が誕生する理由

「八岐大蛇」伝説で、一般的に広く知られている説は、出雲地方発祥の説が有名ですが、これは「日本書紀」に記された説話です。日本で最も古いとされる記紀「古事記」には、「高志^{こしの}八俣^{やまたの}遠呂智^{おろち}」と記され、大蛇は高志=越(現在の富山県)からやってきたとされています。

古^{いにしへ}の伝えによると、人々は大蛇という神を創造し、人類繁栄の糧とされてきた水、争い、戒め、統治の象徴として崇められていました。

日本でも有数の豪雪地、富山県は、霊峰・立山からの雪解け水や、降水量の多い地形の為、古の時代から、凄まじい濁流が人々の生活を襲っていました。立山の上流に位置し、日本一の落差を誇る「称名滝」(しょうみょうだき)から暴れ河と恐れられる「常願寺川」(じょうがんじがわ)へと一気に叩き込まれる水の圧力は荒れ狂い、まさに大蛇の如く、恐ろしく、越人たちは命をかけて堤防を築き、神の怒りを鎮めようと祈願しました。

古の人々は、自然災害は神が起こすものと考え、生き物のように溢れ暴れる河は、まさに「大蛇」のようでした。

その河を治水した砂防の高い技術と、雪深く神秘的な地に住む越人の知恵が、後に出雲(現在の中国地方)へ渡り、同じ境遇に苦しむ民を救ったとされ、これが大蛇伝説発祥の起源となりました。

一方、砂鉄の産地でもある出雲地方は、山を切り崩し、土砂が河に流れ、鉄分で真っ赤に染まった河(神)を血の河と例え、その河がやはり暴れ河と化し、災害がよく起こったそうです。これが出雲地方に伝わる大蛇伝説の起源とされています。



「古事記」、「日本書紀」に限らず、様々な説話や記紀に大蛇伝説は登場します。その話の多くが、動物神が人間神に倒されるという話です。また、多くの話で大蛇は「龍神」として、水を支配するものとして登場します。「毎年娘をさらう」「娘を食う」といった話が出てきますが、これは河の氾濫を意味し、それを退治する事はすなわち治水を意味します。その他、日本各地に大蛇伝説は存在しますが、多くは河の氾濫の象徴を伝える話が数多く残されています。

大蛇【オロチ】「入魂の儀」

去る平成十八年八月二十九日、立山のふもとにある雄山神社にて、「入魂の儀」を行ないました。

私たち光岡自動車は、富山県に本社を置き、同じく富山に開発部・製造工場がある会社です。今回発表致します大蛇【オロチ】のネーミングの由来でもある「ヤマタノオロチ」伝説は、諸説ありますが、前述いたしましたとおり、富山県から発祥している説がございます。

私たちが開発しました大蛇【オロチ】と、「ヤマタノオロチ伝説」が、同じ富山県の霊峰・立山のふもとから生まれた事は、私たちの情念と、歴史の偶然が見事に一致した賜物と感じ、入魂の儀を開催した次第でございます。

入魂の儀では、水神大蛇に尊崇の念を表すとともに、開発テスト車両の試験合格と、試験中の安全、並びに大蛇【オロチ】プロジェクトの成功を祈願して、ミツオカ大蛇【オロチ】に魂を授かる儀式を行ないました。

霊峰・立山をいただき神々が創生した地。 越より出し八岐大蛇。 富山から、新たな大蛇伝説が今始まります

私たちの「夢」のクルマ、大蛇【オロチ】は、時世を越えて霊峰・立山のふもとから生まれ変わり、新たな伝説として今、始まります。